

令和7年度第2回奥州市総合教育会議

日 時 令和7年12月25日（木）午後3時30分
場 所 奥州市役所本庁7階 委員会室

次 第

1 開会

2 市長挨拶

3 教育長挨拶

4 協議

テーマ「奥州宇宙遊学館の今後のあり方について」

5 その他

6 閉会

令和7年度第2回奥州市総合教育会議 出席者名簿

区分	職	氏名
構成員	市長	倉成淳
	教育長	高橋勝
	教育長職務代理者	佐々木哲也
	委員	松本崇
	委員	菊地幸
	委員	猪股登喜子
協働まちづくり部	部長	千葉達也
	生涯学習スポーツ課長兼奥州市江刺生涯学習センター所長	菊池淳
教育委員会事務局	教育部長	高橋広和
	教育総務課長	松戸昭彦
	学校教育課長兼江刺こども支援施設所長	千田有美
	学校教育課主幹兼情報教育推進室長	菅野明史
	歴史遺産課長兼世界遺産登録推進室長兼菊田一夫記念館長	小野寺正行

1 奥州宇宙遊学館の概要

- 1 目的 大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台より譲渡を受けた、国立天文台水沢VERA（現:VLBI）観測所旧本館とそれに関する資料等を市民に公開し、もって生涯学習、市民活動及び市民交流の推進を図るもの。
- 2 位置 奥州市水沢星ヶ丘町2番地12号
- 3 開設 平成20年4月
- 4 施設規模 構造:木造2階建て 敷地面積:1,916.19m² (国立天文台水沢の敷地内を無償貸借) 延床面積:637.86 m²
- 5 施設内容 1階:管理室・情報スペース、展示室、シアター室 2階:展示室、セミナー室、コミュニケーションスペース
- 6 開館時間 午前9時から午後5時まで
- 7 来館者数 16,019人(令和6年度) ※最高値はR元25,837人(ブラックホール撮影効果による。その直後よりコロナ禍で来館者が減少するも、現在は戻りつつある)

2 経過・現状

生涯学習施設として、主に自然科学系生涯学習や市民交流推進を目的に開設。開設時よりNPO法人イーハトーブ宇宙実践センター（以下「NPO」）が、指定管理者として、利用料金制で管理運営。

国立天文台から建物受贈する際の整備活用方針にも「緯度観測所の先達の業績を顕彰する場として、国立天文台と市民の交流の場として、さらには市民が主体的に活動する場として事業をすすめるとともに、限りない可能性を秘めた子どもたちの才能を引き出し、豊かな想像力とやさしい心を育むソフト事業を開拓する場として整備・活用」することとして、当市が無償で譲渡を受けている。

開設から17年が経過し、現在は対外的にも科学館として認知され、展示・企画事業内容からも、主に自然科学に興味を持つ子どもたちの、興味探求を深める場としての活用が、今後より重要になってくると考えられる。

観光面でも、対外的な誘客活動の目玉のひとつとして、天文台に隣接している立地条件は自然科学に興味のある層へのアピールポイントでもあり、その強みを活かし奥州観光PRにも役立っている。

3 指定管理者(NPO)側からの要望

[関係者会議(NPO・天文台・市関係部出席)でNPOから呈される意見]

・自然科学を学べる科学館へシフトしていきたい。教育機関として専門職を置き、人づくりの観点で子どもたちの育成にフォーカスした取組みを進めたい。
・人件費を相応に確保して欲しい。将来的に安定した人員確保・運営となるよう、科学館化して、学芸員等専門性の高い職員を雇用できる水準にして欲しい。

⇒市側からは、今後の長期的な課題として検討する旨を回答してきたが、今後のあり方を見直す時期に来ていると判断している。

【人的体制と人件費について】

施設開設時にNPOで、割愛教員や学芸員配置も検討したものの、人件費負担が大きく困難と判断した経過がある。また、市としても、生涯学習施設としての指定管理であり、科学館としての運営に伴う経費負担は財政状況から困難と判断し、現在に至っている。

NPOでは天文台OB職員を軸に一般スタッフとともに運営してきたが、天文台OB職員も高齢化し、常駐できる状況にはない。また一般スタッフも主に賃金条件理由で人材定着しない。

習熟度の低い状態の一般スタッフでは来館者対応が困難なことも。

奥州宇宙遊学館の今後のあり方について

4 位置づけの見直しについて

[今後の奥州宇宙遊学館(NPO側)の取組案]

自然科学への興味の端緒と深化の鍵となる施設でもあり、子どもたちの学習に活用できるよう、これまでの取組に加えて、以下のようなプログラムの整備を検討している。

また開館4年目からコロナ前までは、来館者の半数以上が高校生以下であったが、近年の高校生以下の来館者数はほぼ横ばいとなっていて、児童生徒数が漸減傾向にあるなか、市の施設でもあり、より地元の小中高生に活用して欲しいと考えている。

- ・出前授業のほか、シアター室等を活用して惑星の衛星写真を立体的に見てもらうといった、学校で扱うテーマに即した実験・観察
- ・社会的問題となっている地球環境、地震、自然災害等を、地球の進化の中で系統的に説明
- ・月、惑星や星の距離と測定方法、ブラックホールのわかりやすい説明、天文学における光と電波の説明と体験 など

これらNPOの要望・取組案や、現状の市内博物館等との関係性・位置付けなども踏まえ、現在の生涯学習施設のまとすべきか否か、さまざまな角度から検討を進めていくにあたり、ご意見をいただきたい。

